

# 平成 29 年 11 月の写真集以降に、新たに整備された四国の 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表（平成 30 年 5 月現在）について

掲載責任者 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 客員教授 松尾裕治

## 1、今回追加調査目的、

四国の津波避難タワー等写真集（平成 29 年 11 月発行）以降に整備された四国の津波避難タワーの現地調査を行い、現在公開中の四国の津波避難タワー等位置図に追加することを目的とした。

## 2、調査実施方法、

高知県南海トラフ地震対策課から提供いただいた津波避難タワー整備進捗状況（平成 30 年 4 月）の一覧表と写真集（平成 29 年 11 月発行）P5～7 の表 3 四国の津波避難タワー等一覧表の比較を行い、新た追加調査する津波避難タワーを導き出し現地調査を行いタワーの設置場所を確認した。

## 3、追加タワー調査結果

比較調査の結果、室戸市 3 基、安芸市 1 基、香南市 3 基、黒潮町 1 基、の計 8 基が新たに整備されていた。なお徳島県には平成 29 年 11 月以降、平成 30 年 5 月現在までに、新たに整備された津波避難タワーはなかった。

補足説明：お四国の津波避難タワー等写真集（平成 29 年 11 月発行）の一覧表では、高知県 103 箇所になっているため、8 基加えると高知県で 111 基になる。これは、室戸市の都呂津波シェルターと四万十市の山地地区津波避難タワーが高知県の津波避難タワー整備進捗状況（平成 30 年 4 月）109 基には含まれていないためである。

平成 30 年 5 月現地調査を行い新たに現地確認した高知県内の津波避難タワー一覧表


整理番号	市町名	津波避難タワー名	設置場所	収容人数
118	室戸市	浮津西町地区津波避難タワー	室戸市浮津二番町 170-2	140
119	室戸市	脇地区津波避難タワー	室戸市元（脇地集会所西側）	80
120	室戸市	吉良川町西町地区津波避難タワー	室戸市吉良川町甲 2811-14 （吉良川小学校西側）	100
121	安芸市	川北新町津波避難タワー	安芸市川北甲	261
122	香南市	K2 香我美町岸本 10 区津波避難タワー	香南市香我美町岸本 537（岸本第 3 団地東側）	302
123	香南市	K3 香我美町岸本 8 区津波避難タワー	香南市香我美町岸本 439-1	123
124	香南市	A4 赤岡町南町津波避難タワー	高知県香南市赤岡町 325-9 （赤岡市民館西側）	416
125	黒潮町	土佐大規模公園展望台津波避難タワー	黒潮町入野 172-6 付近（ふるさと総合センターの横）	450

なお整理番号は、117 まで先の写真集で使用しているため、整理し個別表を掲載するため、四国 88 箇所霊場巡礼と同じ順路で整理番号 118～125 までを追加した。

## 4、今回、新たに追加した津波避難タワー個別表および写真集






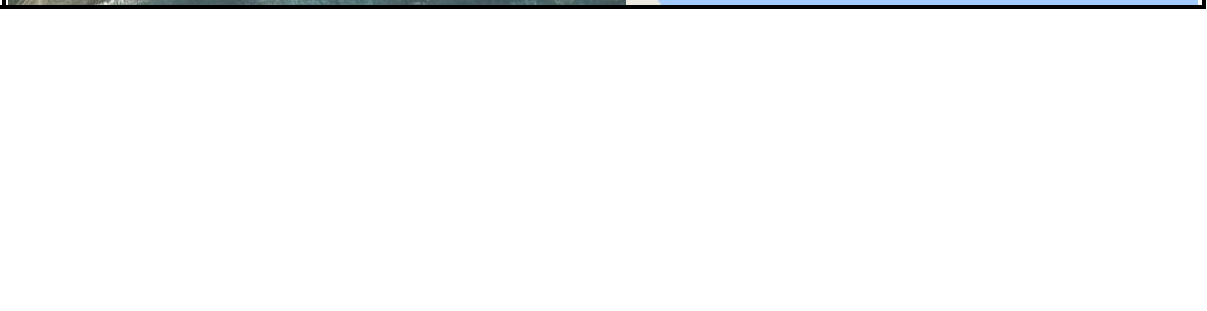
四国防災共同教育センターホームページで公開している四国の津波避難タワー等位置図に平成 29 年 11 月の写真集以降に、新たに整備された高知県 8 基の津波避難タワーの個別表および写真集を以下に追加し、次頁以降に、示す。

## 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	118	県名	高知県			
名称	浮津西町地区津波避難タワー				市町村名	室戸市
所在場所	高知県高知県室戸市浮津二番町170-2					
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>室戸市浮津（うきつ）には、浮津西町地区津波避難タワー(写真1～3)が整備されています。</p> <p>アクセスは、高知から国道55号を室戸市役所に向かい浮津の入ったところで、国道55号沿いENEOSのガソリンスタントの交差点を右折して約100m先の浮津集落の中にあります。</p> <p>このタワーは、海岸から約150m入った海拔が約7.3m（国土地理院の標高がわかるWEB地図より）の浮津西町地区（写真4）の中であり、避難タワーの最上階が地上から10.93mの高さ（写真5）で海拔約18.2mにあり、140人が収容できる避難タワーとして、平成30年2月に整備（写真6）されています。</p> <p>現地のタワーは、正面の1階やスロープのタワー登り口には写真7、8のようにボードがあり、避難タワーに上がることができない状況ですが、非常時には、カバーを蹴破って、ください」とあり、登ることができるようになっています。</p> <p>このタワーのある浮津集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【事なし】と記述されているものの、宝永大地震一土佐最大の被害地震一（間城龍男著）は、室戸付近津波浸入図（写真9）を示しており、浮津の海岸沿いは、一部浸水しているように見えます。</p> <p>室戸市が、住民の迅速で的確な津波避難につなげていただくため、南海トラフ地震津波のシミュレーション浸水予測結果から津波防災マップとして各地区の最大浸水深を公表しています。</p> <p>写真10には室戸市津波防災マップ（浮津東、浮津西）を示します。そこに浮津西町地区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が5m～10mと予測されています。</p>					
掲載写真						
						
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)						

整理番号	119	県名	高知県			
名称	脇地区津波避難タワー				市町村名	室戸市
所在場所	高知県室戸市元（脇地集会所西側）					

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

<p>現地調査・見所・アクセス・解説文</p>	<p>高知から国道55号を室戸方面に向かって走行すると行当岬を過ぎると元（もと）の集落があります。元小学校に行く国道55号線から左の道路を約200m先の元集落の脇地集会所の西側に脇地区津波避難タワー(写真1～3)があります。このタワーは、脇地集会所の前の脇地区防災マップ(写真4)が示すように海岸堤防から約100m入った海拔が約10.5mの脇地区(写真5)の中であり、避難タワーの最上階が地上から12.05mの高さで海拔約22.5mにあり、80人が収容できる避難タワーとして、平成30年2月に整備(写真6)されています。</p> <p>現地のタワーは、正面の1階に写真7のような津波避難タワー利用注意が管理者の室戸市防災対策課より、掲示されており、普段は上り口が写真8のようにボードで覆われて施錠され、「緊急時には、ここを蹴破って進入し中から回転錠を回して開錠しドアあけて下さい」とあり、施錠穴のカバーを外して誰でも開けることができるようにしています。しかし、普段は避難タワーに上がることができない状況です。</p> <p>このタワーのある元集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【磯辺ノ家少シ流ル、潮ハ田丁三ヶマデ。慶長九年ノ潮ヨリ六尺 卑(ヒカ)ト言。】と記述されており、また間城龍男(元高知地方気象台防災業務課長)氏が「南海地震を知らず32、宝永南海地震(2009年1月28日毎日新聞執筆記事)の中で「元は田畑の3分の1程度が浸水し、海際の家が2軒流失した。」あり、家にも津波被害が及んだことがわかります。さらに、今村明恒：土佐に於ける宝永安政両度津浪の高さ、地震、10巻、1938年の室戸岬～元付近までの浸水区域図(写真9)にも田畑の3分の1程度が浸水し様子を示しています。また都司嘉宣らは津波工学研究報告書第30号、2013では「谷陵記」の記載に基づく宝永地震津波の高知県における津波浸水標高の中で、元の津波高は6.5mと推定しています。</p> <p>室戸市が、住民の迅速で的確な津波避難につなげていただくため、南海トラフ地震津波のシミュレーション浸水予測結果から津波防災マップとして各地区の最大浸水深を公表しています。</p> <p>写真10には室戸市津波防災マップ(元2)を示します。そこに脇地区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が5m～10mと予測されています。</p>				
<p>掲載写真</p>	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>	 <p>写真3</p>	 <p>写真4</p>	 <p>写真5</p>
<p>地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)</p>	 <p>写真6</p>  <p>写真7</p>  <p>写真8</p>  <p>写真9</p>  <p>写真10</p>				
<p>地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)</p>					

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	120	県名	高知県		
名称	吉良川町西町地区津波避難タワー		市町村名	室戸市	
所在場所	高知県室戸市吉良川町甲2811-14 (吉良川小学校西側)				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>安芸から国道55号を室戸方面に向かって約30km走行すると吉良川があります。その橋を渡ると左側に吉良川小学校に向かう道路があります。その道路を北東に約500m進んだ吉良川小学校手前の吉良川町西町地区集落の中に吉良川町西町地区津波避難タワー(写真1~3)があります。</p> <p>このタワーは、海岸から約400m入った海拔が約7.0m(国土地理院の標高がわかるWEB地図)の吉良川町西町地区(写真4)の中にあり、避難タワーの最上階が地上から8.8mの高さで、100人が収容できる避難タワーとして、平成30年1月に整備(写真5)されています。</p> <p>現地のタワーは、正面の1階に写真6のような津波避難タワー利用注意が管理者の室戸市防災対策課より、掲示されており、普段は上り口が施錠され、避難タワーに上がることができない状況です。</p> <p>スロープの入り口には、写真7、8のように「緊急時は、ここを蹴破って進入し中から回転錠を回して開錠しドアあけて下さい」あり、開錠してタワーに避難するようになっています。</p> <p>このタワーのある吉良川集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【事ナシ】と記されています。昔からの集落はタワーのある場所より少し高いため、集落の津波被害はなかったと推定できます。</p> <p>室戸市が、住民の迅速で的確な津波避難につなげていただくため、南海トラフ地震津波のシミュレーション浸水予測結果から津波防災マップとして各地区の最大浸水深を公表しています。</p> <p>写真9は、平成24年12月に撮影した航空写真に吉良川町西町地区津波避難タワーの位置を示す。</p> <p>写真10には、室戸市津波防災マップ(吉良川中)を示します。そこに吉良川町西町地区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が3m~5mと予測されています。</p>				
掲載写真					
	写真1	写真2	写真3	写真4	写真5
	写真6	写真7	写真8	写真9	写真10
地図(四国津波避難タワー等現地調査マップより)					

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	121	県名	高知県		
名称	川北新町津波避難タワー		市町村名	安芸市	
所在場所	高知県安芸市川北甲				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>安芸市役所前の国道55号を室戸方面に向かって安芸川を越えて約1.4km走行する土佐くろしお鉄道の高架下の手前の道路を左折して、約80mの所、伊尾木の左岸堤防の西側約100mの川北新町集落東側の端に川北新町津波避難タワー(写真1~4)があります。</p> <p>この避難タワーの場所は国土地理院の標高がわかるWEB地図によると海拔3.8mにあり、261人が収容できる避難タワーとして、平成29年度に整備されています。現地のタワーは、正面の1階に写真5のようなボードがあり、普段は避難タワーに上がることができない状況です。</p> <p>スロープの入り口にも同じように、写真6、7のようなボードがあり「非常時には、ここを蹴破って進入してください」あり、ボード蹴破ってタワー上に避難するようになっています。</p> <p>このタワーは写真8のように人が通ったことを感知できるような装置が設置されていました。</p> <p>このタワーのある川北集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【松田島・窪田亡所、柄川本村事ナシ。】と記されています。また間城龍男(元高知地方気象台防災業務課長)氏が「南海地震を知らう32、宝永南海地震(2009年1月28日毎日新聞執筆記事)の中で、安芸付近推定津波浸入図(写真9)を示し、「安芸の町は第1波、第2波により東の岸の下の家はすべて流れ、第3波より北側の岸の上一町半ぐらいまでの家が流失しているので、町の北東部の津波の高さは5~6mと推定される。町の北は土居の海拔高度9~10mの溝カ淵に達している。・・・(中略)・・・安芸川の津波は横山付近に達し、川の東の松田島、新町島、上島、西ノ島、久保田は全戸流失し、伊尾木は高所の家を除きすべての家が流失した。」川北集落は、壊滅的な津波被害があったことがわかります。</p> <p>安芸市川北自主防災会が住民に迅速で的確な津波避難につなげていただくため、津波ハザードマップ(写真10)を公表しています。そこに川北新町津波避難タワーの位置を示します。</p>				
掲載写真					
地図(四国津波避難タワー等現地調査マップより)					

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	122	県名	高知県	名称	K2香我美町岸本10区津波避難タワー	市町村名	香南市
所在場所	高知県香南市香我美町岸本537（岸本第3団地東側）						
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>高知から国道55号を安芸市方面に向かって走行すると右側（海側）に高架の土佐くろしお鉄道の香我美駅があります。その香我美駅の案内看板がかかる交差点を駅と反対側に左折して、川沿いに約300m行って、さらに右折して川を渡り200m先の岸本第3団地の東側にK2香我美町岸本10区津波避難タワー(写真1～3)があります。</p> <p>この避難タワーは国土地理院の標高がわかるWEB地図によると海拔4.6m(写真4)の岸本第3団地安芸の横にあり、写真5のような平成30年2月に、地上高9m、収容認数302名の津波避難タワーとして整備されています。</p> <p>現地のタワーの入り口には、写真6のように扉が設置してあり「緊急時には、ここを蹴破って避難してください」と書かれた看板があり、鍵を回して開錠してドアを開いて避難するようになっています。普段はタワーにあがることができない状況です。</p> <p>平成24年12月に撮影した航空写真(写真7)に、タワーの設置場所を示します。</p> <p>このタワーのある香我美町の岸本集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【岸本：亡所、潮は山マデ。】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一(間城龍男著)は、香我美～南国の津波侵入図(写真8)示し、岸本：「亡所、潮は山まで」「岸本赤岡の町一軒も残らず押し流し申す也」津波は海岸砂丘(東部5.5m～6.0m、西部6.5m～8.0m)を乗り越えて全戸流失した」とあり、K2香我美町岸本10区津波避難タワーのある岸本集落は、宝永地震津波で壊滅的被害を受けたと推定されます。</p> <p>高知県が県民に津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図(写真9)を公表しています。</p> <p>写真10に香南市津波ハザードマップを示します。そこにK2香我美町岸本10区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が3m～5mと予測されています。</p>						
掲載写真							
							
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)							

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表






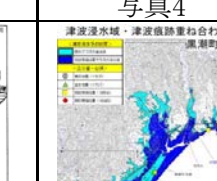


整理番号	1 2 3	県名	高知県		
名称	K3 香我美町岸本8区津波避難タワー		市町村名	香南市	
所在場所	高知県香南市香我美町岸本439-1				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>高知から国道55号を安芸市方面に向かって走行すると右側（海側）に高架の土佐くろしお鉄道の香我美駅があります。その香我美駅の案内看板がかかる交差点を駅と反対側に左折して、川沿いに約200m行って、左折して約150m先の道路横に、K3 香我美町岸本8区津波避難タワー(写真1~3)があります。</p> <p>この避難タワーは、国土地理院の標高がわかるWEB地図によると海拔6.6m（写真4）の岸本集落の中にあり、写真5のような平成30年2月に、地上高9m、収容認数123名の津波避難タワーとして整備されています。</p> <p>現地のタワーの入り口には、写真7のように扉一が設置してあり「緊急時には、ここを蹴破って避難してください」と書かれた看板があり、鍵を回して開錠してドアを開いて避難するようになっています。普段はタワーにあがることができない状況です。</p> <p>このタワーのある香我美町の岸本集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【岸本：亡所、潮ハ山マデ。】と記されています。また宝永大地震ー土佐最大の被害地震ー（間城龍男著）は、香我美～南国の津波浸入図（写真8）示し、岸本：「亡所、潮は山まで」「岸本赤岡の町一軒も残らず押し流し申す也」津波は海岸砂丘（東部5.5m～6.0m、西部6.5m～8.0m）を乗り越えて全戸流失した」とあり、K3 香我美町岸本8区津波避難タワーのある岸本集落は、宝永地震津波で壊滅的被害を受けたと推定されます。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。</p> <p>写真10に香南市津波ハザードマップを示します。そこにK3 香我美町岸本8区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が3m～5mと予測されています。</p>				
掲載写真					
	写真1	写真2	写真3	写真4	写真5
	写真6	写真7	写真8	写真9	写真10
地図 （四国津波避難タワー等現地調査マップより）					

# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	124	県名	高知県	
名称	A4 赤岡町南町津波避難タワー		市町村名	香南市
所在場所	高知県香南市赤岡町325-9 (赤岡市民館西側)			
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>国道 55 号を室戸方面に向かって走行し、赤岡町に入って南国警察署香南警察庁舎を過ぎて香宗川を渡たり、約150m先に横断歩道橋の次の交差点を右折し約100m行った赤岡市民館の西側にA4 赤岡町南町津波避難タワー (写真1~4) があります。</p> <p>この避難タワーのある赤岡市民館付近の高さは、国土地理院の標高がわかるWEB地図によると海拔9.1m程度となっています。またタワーは、避難階は最上階は地上から10mの高さにあり、416人が収容できる避難タワーとして、平成30年2月 (写真5) に整備されています。現地のタワーの正面の入口やスロープの入り口 (写真6) には、「緊急時には、ここを破って避難して下さい」という文字と中のノブを回し開ける手順が説明されていますが、普段はタワーにあがることができない状況です。</p> <p>平成24年12月に撮影した航空写真 (写真7) に、A4 赤岡町南町津波避難タワーの設置場所を示します。このタワーのある海側の赤岡町の集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記 (こくりょうき)」に、【赤岡：潮ハ在所残ナシ、流家三ヶ一。】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一 (間城龍男著) は、香我美～南国の津波浸入図 (写真8) 示し、赤岡：「潮は在所残なし流家三ヶ一」「本町南かわ下の浜残らず流失」「岸本赤岡の町一軒も残らず押し流す也」津波は、香宗川の河口付近と海岸砂丘を乗り越えて浸入、ほとんどの人家は浸水をした。町の南側の浜の家や西部の低地にあった家など、町の3分の1程度の人家は流失した。津波の高さは、赤岡の海岸砂丘は西部に5~6mの低い所もあるが、一般に8~8.5mで中には10m以上の小丘もあった。津波は砂丘を乗り越えてほとんどの人家に浸入したが流失家屋は3分の1程度であった。この事から砂丘を駆け上がった津波の高さは、町の家屋3分の1流失で済んだ、9m程度であったと推定される」としており、A4 赤岡町南町津波避難タワーのある赤岡集落は、宝永地震津波で大きな壊滅的被害を受けたと推定されます。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図 (写真9) を公表しています。</p> <p>写真10には香南市津波ハザードマップ (赤岡町・香我美町) を示します、そこに4 赤岡町南町津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が2m~3mと予測されています。</p>			
掲載写真	<p>写真1 写真2 写真3 写真4 写真5</p> <p>写真6 写真7 写真8 写真9 写真10</p>			
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)				



# 津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	12	県名	高知県		
名称	土佐大規模公園展望台津波避難タワー		市町村名	黒潮町	
所在場所	高知県黒潮町入野172-6付近（ふるさと総合センターの横）				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>国道56号線を中村に向かって走行し、黒潮町役場に行く交差点を左折し、約200m先のくろしお中村線の土佐入野駅を目指し、そこから鉄道に沿って南に約150m行った所を左折しその先、入野の松林を抜けた先に200m先にある土佐大規模公園展望台にある土佐大規模公園展望台津波避難タワー（写真1～4）があります。</p> <p>この現地の土佐大規模公園展望台津波避難タワーは、平成24年12月5日撮影の航空写真（写真5）にその位置を示します。このタワーが高知県が土佐大規模公園に訪れている方の避難場所、450人が収容できる施設として、高知県が整備したものです。</p> <p>黒潮町の庁舎は、平成23年11月16日に撮影した写真7のように、入野地区の中心部の低地にありましたが、現在は、写真7のように高台に移転されています。</p> <p>このタワーのある入野地区は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【入野：亡所、潮ハ山マデ。此ノ浜ノ松林、八幡・加茂ノ両社潮入ト言エドモ流レズ。加茂ハ二社也。右、松林は鞭ヨリ下田ノロマデ連続シ、其ノ樹直キ事竹ノ如クニシテ其ノ長短モ無ク、一國ノ壯觀ナリシガ、所々切レ損シ或イハ打ち折り根コギニシ又根ヲ洗イ出シケル故、大半ハ枯レ木トナル。林ノ中間ニ潮ミチクレバ横二十間（約36m）計リノ江湾有リケルガ、高潮掘リウガチ横四五丁（約4～500m）計リノ海トナリ、田丁六丁（約600m）程上ミ浪打際トナル。此ノ村ノ地高千三百石、谷々ニ残ル所ノ田畑終ニ九十石、里人生業ヲ失ウモ理也。】と記されています。また間城龍男著「宝永大地震ー土佐最大の被害地震」は、入野付近の宝永津波侵入図（写真8）を示し「鞭：「潮は山まで山のうえの家は事ない」津波は山に達し、平地の「家はすべて流失、山の上の家は浸水しなかった。口湊川：「潮は山まで流家少なし」津波は海岸から2km余り川上の山麓まで達し、海岸よりより人家は少々流失した。鹿持：「亡所潮は山まで山の上にある家残し、田丁一面の海になる」津波は山に達し田畑は海の如くなった。このため、人家も山の上の家を除いてすべて流失した。矢玉猿飼では「山間の薄田少し残る」と高所の田畑は流失を免れた。入野：下田の口「亡所潮は山まで」津波は山に達し、全戸流失をした。上田の口：「半亡所潮は銅山の下まで流家少なし」津波は山に達し、ほとんどの家は浸水をしたが流失家屋は少なかった。」としており、入野地区は宝永地震津波で壊滅的被害を受けています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。</p> <p>写真10に黒潮町地震・津波ハザードマップを示します、そこに土佐大規模公園展望台津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が5m～10mと予測されています。</p>				
掲載写真	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>	 <p>写真3</p>	 <p>写真4</p>	 <p>写真5</p>
	 <p>写真6</p>	 <p>写真7</p>	 <p>写真8</p>	 <p>写真9</p>	 <p>写真10</p>
地図（四国津波避難タワー等現地調査マップより）					



所在場所:高知県室戸市浮津二番町170-2 収容人数:140人 (平成30年5月16日撮影)

## 浮津西町地区津波避難タワー(室戸市)の写真



## 浮津西町地区津波避難タワー(室戸市)の設置場所



所在場所:高知県室戸市元(脇地集会所西側) 収容人数:80人 (平成30年5月16日撮影)

## 脇地区津波避難タワー(室戸市)の写真



## 脇地区津波避難タワー

四国ケイイト協会提供(平成24年12月4日撮影)

## 脇地区津波避難タワー(室戸市)の設置場所



(平成30年5月16日撮影)

所在場所: 高知県室戸市吉良川町甲2811-14(吉良川小学校西側) 収容人数: 100人

## 吉良川町西町地区津波避難タワー(室戸市)の写真



四国ケイイト協会提供(平成24年12月4日撮影)

## 吉良川町西町地区津波避難タワー(室戸市)の設置場所



所在場所: 高知県安芸市川北甲 収容人数: 261人

(平成30年5月16日撮影)

## 川北新町津波避難タワー(安芸市)の写真



四国グレイト協会提供(平成24年12月4日撮影)

## 川北新町津波避難タワー(安芸市)の設置場所



(平成30年5月16日撮影)

所在場所: 高知県香南市香我美町岸本537 (岸本第3団地東側) 収容人数: 302人

## K2香我美町岸本10区津波避難タワー(香南市)の写真



四国グレイト協会提供(平成24年12月4日撮影)

## K2香我美町岸本10区津波避難タワー(香南市)の設置場所



(平成30年5月16日撮影)

所在場所: 高知県香南市香我美町岸本439-1 収容人数: 123人

## K3香我美町岸本8区津波避難タワー(香南市)の写真



四国クワイエット協会提供(平成24年12月4日撮影)

## K3香我美町岸本8区津波避難タワー(香南市)の設置場所



(平成30年5月16日撮影)

所在場所: 高知県香南市赤岡町325-9(赤岡市民館西側) 収容人数:416人

## A4赤岡町南町津波避難タワー(香南市)の写真



四国ぐい工イト協会提供(平成24年12月4日撮影)

## A4赤岡町南町津波避難タワー(香南市)の設置場所





(平成30年5月16日撮影)

所在場所: 高知県黒潮町入野172-6付近 (ふるさと総合センター横) 収容人数: 450人

## 土佐大規模公園展望台津波避難タワー(黒潮町)の写真



土佐大規模公園展望台津波避難タワー

四国クワイエット協会提供(平成24年12月4日撮影)

## 土佐大規模公園展望台津波避難タワー(黒潮町)の設置場所